

大草谷津田いきものの里

アカガエルの卵をさがそう

弦巻 滋子（千葉市）

日 時：2009 年 2 月 15 日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：19 名（大人 10 名、小人 9 名）

担当指導員：芳我めぐみ・弦巻滋子

〈大草谷津田いきものの里〉で自然保護協会の「里モニ 1000」講習会が同時刻に開催されました。鳥類、カエル類の野外調査実習が行われるのに際し、お互いに邪魔にならないように注意する旨を確認して観察に臨みました。

「田・森クラブ」の方がニホンアカガエルの産卵場所にと掘った水溜りに、子供達が卵塊を発見、網でそーっとすくって容器に入れて、見たり、さわったり皆で観察しました。また、アカガエルの成体を捕まえて、居合わせた「里モニ 1000」の先生からアカガエルの名前の由来や雄(前足が太い)と雌の違いを教えて頂き、お腹をさわってその感触を確かめたりしました。指に吸盤がないのも見てもらい、コンクリート三面張りの水路では田圃から林に渡れないことも実感してもらいました。ニホンアカガエルの繁殖場所は早春でも水が溜まっているような湿田や湿地などの、日当たりの良い浅い止水の有る所が必要、ここ大草谷津田の湿田は、ニホンアカガエルにとってとても貴重な生息地となっていることを説明しました。産卵を終えた雌はもう一度、眠りに入ります。雌 1 匹が 1 個の卵塊を産卵＝雌の数、2 倍するとほぼその場所のアカガエルの数がわかります。環境の変化をいち早く察知するためにも卵塊調査の大事なことを話しました。

網を持って参加した子供達は、水路でドジョウ、アメリカザリガニ、ヨコエビ、ゲンゴロウの仲間？等も捕まえて観察しました。ハート型になった蜂の巣（コアシナガバチらしい）やキボシアシナガバチの巣を見つけてきた子供達もいました。その他成虫越冬していたキタテハ、ルリタテハも暖かさにつられて飛んでいました。田圃には常連のセグロセキレイも観られました。観察した生きものを元の場所に戻して広場へ戻る途中、下ノ畑では長く伸びたフジヅルを見て「ジャックとマメの木」みたーい、と言って代わる代わるぶら下がり、しばし空へ登るジャックの気分になったりと、子供達のエネルギーに圧倒された一時でした。

終わりに、今日の感想は？とたずねると「面白かった」「楽しかった」「カエルの卵、ヌルヌルベチョベチョだった」と子供さん、大人の方からは「昔アカガエルの皮をむいて網であぶって食べたものですよ、美味しかったですよ。それに参加された子供さん達に対するガイドの方の接し方が良かった。」等々、思わぬお褒めの言葉まで頂いて、恐縮しながらも嬉しい観察会となりました。